

愛三グループの 理念体系

会社のあるべき姿

理念を実現するために
社会課題の解決と持続的な成長を目指す
具体的な長期方針

サステナビリティ基本方針と連動し
2030年に会社が
ありたい姿とした中期方針

VISION2030を
実現するための
具体的な行動

経営理念

サステナビリティ
基本方針

VISION2030

中期経営計画

経営理念

1. お客様第一の心で商品を創り
2. 知恵と技術で高品質を実現し
3. 人を大切にする明るい職場を築いて

企業の繁栄と豊かな環境作りで
社会に貢献する

サステナビリティ基本方針

愛三グループは、経営理念に基づき、グローバルな事業活動を通じて社会の課題解決と持続的な発展に貢献します。
私たちは、確かな技術と品質で新たな価値を創造し、ステークホルダーの期待に応えるとともに
持続的な企業価値向上を目指します。

VISION2030

この手で笑顔の未来を

確かな技術と品質で豊かな社会へ新たな価値を創造。
今をもっと快適に、未来の子どもたちに安心と笑顔を。

CONTENTS

イントロダクション — 3

経営理念	3
サステナビリティ基本方針	5
VISION2030	7
愛三グループのあゆみ	9
愛三グループのグローバル展開	11
愛三製品紹介	13

Chapter 1

価値創造のための戦略 — 15

社長メッセージ	17
価値創造ストーリー	23
経営資源	25
サステナビリティ経営	27

Chapter 2

価値創造への取り組み — 31

財務担当役員メッセージ	33
中期経営計画	39
特集1：パワートレイン製品事業の強化	41
特集2：電動化システム製品・クリーン エネルギー技術活用事業の強化	43
特集3：革新ものづくりの強化	45

Chapter 3

サステナビリティ経営の推進 47

環境マネジメント	49
TCFD提言に基づく情報開示	53
安全衛生・健康経営への取り組み	55
人的資本	57
多様な人財活躍(DEI・人権)	59
ステークホルダーエンゲージメント	60

Chapter 4

価値創造を支える基盤 — 63

コーポレートガバナンス	65
コンプライアンス	67
リスクマネジメント	68
役員一覧	69
社外取締役メッセージ	71
財務・非財務データ	73
会社情報	77

編集方針 — 統合報告書2024でお伝えしたいこと —

統合報告書は、財務情報と持続的成長の基盤となる非財務情報の両面から、当社の中長期的な価値創造ストーリーについて分かりやすく報告するためのツールです。2023年度は、機関投資家の皆さまからのフィードバックを踏まえ、イントロダクションでは理念体系を整理し「環境技術No.1メーカーへの挑戦」への私たちの思いと道筋を分かりやすくお示しするよう工夫しました。また、グローバル企業としての責任を果たすべく、資本市場から要請される情報開示を念頭にマテリアリティの開示強化、ROICツリーに基づく企業価値創造の考え方に関する開示にも取り組みました。今後も事業活動やIR活動を通してお寄せいただいたご意見にお応えし、情報開示の量・質ともに高めてまいります。引き続き忌憚ないご意見を賜りますようお願いいたします。

報告対象期間	2023年4月1日～2024年3月31日 (一部、2024年4月以降の情報を含みます)
報告範囲	愛三工業株式会社および愛三グループ

参照ガイドライン

◎ Value Reporting Foundation(VRF)「国際統合報告フレームワーク」
◎ 経済産業省「価値協創ガイダンス」

本報告書の 位置づけ	財務情報	非財務情報
	Webサイト／ 決算資料／ 有価証券報告書 など	Webサイト／ コーポレート ガバナンス報告書 など

見通しに関する注意事項

本報告書には、当社の将来に関する見通しおよび計画に基づいた将来予測が含まれています。これらの将来予測にはリスクや不確定要素等が含まれており、実際の成果や業績とは異なる可能性があることを、あらかじめご理解くださいますようお願いいたします。

経営理念 — 大切にしている企業文化 —

企業の繁栄と 豊かな環境作りで 社会に貢献する

私たちは、企業の繁栄と社会の繁栄は相互に関連していると考えており、利益を追求するだけでなく、社会に対して責任を持ち環境に配慮した事業活動を行っています。社会の持続可能な発展に向けた一歩となるだけでなく、私たち自身も成長し続けるための重要な要素です。

経営理念

サステナビリティ
基本方針

VISION2030

中期経営計画

お客様第一の 心で商品を創る

1

私たちは事業の成長を通じて社会に貢献するため、お客さまの期待を超える提案やものづくりに取り組んでいます。お客さまのニーズを先取りしてバリューチェーン全体で新たな価値を創造し、地球環境にやさしい豊かな社会の実現を目指します。

知恵と技術で 高品質を実現

2

私たちは常に新技術開発・研究に勤しみ、環境分野において社会に貢献できる製品の開発と高品質なものづくりを両立します。「品質の愛三」として今後もお客さまに信頼され続けるため、知恵と技術を駆使して製品の性能や品質の向上を追求し続けます。

人を大切にする 明るい職場を築く

3

私たちは共に働く従業員を重要な財産と考えており、愛三グループで働く一人ひとりが仕事にやりがいを見だし、成長し、活躍できる明るく活気のある職場環境を築くことを目指しています。そして従業員自身のアイデアや意見を自由に発信できる風土を醸成し、会社と従業員双方の成長を図ります。

PHILOSOPHY

サステナビリティ基本方針

愛三グループが 実践する サステナビリティ経営

愛三グループは創業以来80年以上にわたり、社会環境や規制強化といった市場の変化に応え、ひたむきに技術を磨き、幾度の変革を乗り越え、成長を遂げてきました。歴史の中で培ったチャレンジ精神や品質へのプライドは、愛三グループのアイデンティティとして今も受け継がれています。現在の社会動向や自動車業界の変化の中でもこの精神を引き継ぎ、事業変革を通して社会に貢献してまいります。

サステナビリティ 基本方針

愛三グループは、経営理念に基づき、グローバルな事業活動を通じて社会の課題解決と持続的な発展に貢献します。

私たちは、確かな技術と品質で新たな価値を創造し、ステークホルダーの期待に応えるとともに持続的な企業価値向上を目指します。

経営理念

サステナビリティ
基本方針

VISION2030

中期経営計画

実践するための土台

愛三グループの
アイデンティティと強み

変革を
乗り越えてきた

チャレンジ精神



規制強化の
波に対応

環境技術



重要機能部品を
支える



「品質の愛三」
への誇り

すべてのステーク
ホルダーのために



実直でひたむきな
企業姿勢

ものづくり

愛三の強み

製品開発/
制御技術

システム開発/
エンジニアリング

SUSTAINABILITY

事業を通じて創造するバリュー

Mobility

モビリティ

クリーンで安全・安心なモビリティの実現

私たちは得意分野である環境技術を活かし、低燃費や部品の軽量化、排出ガスのクリーン化でモビリティの進化を支えてきました。そしてモビリティの多様化においても、「良品廉価」のもののづくりで、移動のうれしさや楽しさに貢献します。愛三グループはグローバルな事業活動を通じてモビリティの持続的な発展に貢献するため、確かな技術と品質で新たな価値を創造し、ステークホルダーの期待に応えるとともに企業価値向上を目指します。

For the future Society

未来社会

暮らしやすい豊かな社会へプラス1の価値創造

私たちは化石燃料を使用したモビリティの分野において、CO₂低減に向けた精密制御をあらゆる機能製品で対応してきました。長年にわたり培ってきた液体・気体の流れを制御する技術や排出ガスをクリーンにする技術を活用し、モビリティの枠に捉われず、水素・アンモニアなどの新しいエネルギーをより高効率で生成・活用する取り組みを進めます。脱炭素社会構築への取り組みを通して環境への負荷を最小限に抑えながら、将来のサステナブルな社会がより豊かで笑顔があふれるものであることを目指し、世代を超えた持続的な発展のため、私たちの技術をより広い分野で活用していきます。

VISION2030

愛三グループが 目指す ありたい姿

VISION2030の「この手」は「自らの手で、自分ごととして取り組もう」という従業員一人ひとりの決意を示しています。

そして、「笑顔」という言葉には、私たちの製品がお客さまから必要とされ、お客さまと私たちを笑顔でつなぎ、次の世代を担う子どもたちの笑顔を育むという思いを込めています。私たちは、これからも社会に必要とされる企業であり続けるために、チャレンジと変革を続けてまいります。



2030年を見据えた戦略
(中期経営計画)

成長の源泉

既存パワートレイン
製品事業の競争力強化と
さらなる成長

新たな 成長投資

技術力とものづくり力を
活用した脱炭素化に資する
新規領域の事業育成

経営
理念

▶ P39・40参照

パワートレイン
分野を
トップメーカー
として
支え続ける

クリーンで
安全・安心な
モビリティの
実現

環境技術
No.1

暮らしやすい
豊かな社会へ
プラス1の
価値創造

強みである
技術力と
ものづくり力を
活かしあらゆる
エネルギー源に
対応した製品を
開発・生産

VISION2030
**この手で
笑顔の未来を**

確かな技術と品質で
豊かな社会へ新たな価値を創造。
今をもっと快適に、
未来の子どもたちに
安心と笑顔を。

「ありたい姿」

VISION2030

私たちは常に時代の変化を捉え、時代のニーズに合わせて市場の期待に応えてまいりました。

モータリゼーションの到来、排出ガス規制、電子化の波を乗り越え、今後も新たな変化を続けてまいります。

創業～1980年

民需転換し 自動車部品メーカーへ

1938年、軍需品の製造工場として創業。てき弾筒や航空機部品の製造に従事。終戦後、株式会社豊田自動織機製作所（現株式会社豊田自動織機）からキャブレタの製造を譲り受け、1946年に民需生産会社へ転換、自動車部品メーカーとして再出発。キャブレタの生産を急拡大させ、「キャブレタの愛三」としてモータリゼーションの発展に貢献し、厳しさを増す環境規制にも対応。精密加工技術に加え、アルミダイカストなどの多彩な生産技術と知見を蓄積。



- 1938年 軍需品製造のため名古屋市内に設立
- 1945年 終戦、キャブレタなどの自動車部品生産開始
- 1957年 本社・工場を愛知県大府市に移転
- 1960年 エンジンバルブの生産開始
- 1971年 安城工場 操業開始
- 1980年 名証第2部に上場

1981年～2000年

キャブレタから EFI製品へ事業転換

各国での排出ガス規制が段階的に強化され、自動車の電子化・高機能化が進展するのに合わせて、当社はキャブレタからEFI（電子制御式燃料噴射）製品へ主力事業を転換。キャブレタで培った技術を活かし、燃料系、吸排気系などEFI製品の領域を拡大。さらに、トヨタ自動車株式会社からエンジン適合事業を受託し、車両全体の評価技術・ノウハウを蓄積することで、エンジン制御システムメーカーに向けた開発力を強化・拡大。



- 1981年 スロットルボデーの生産開始
- 1983年 電動燃料ポンプの生産開始
- 1984年 インジェクタの生産開始
- 1989年 米国に生産子会社を設立
- 1990年 豊田工場 操業開始
- 1996年 エンジン適合受託開始

2001年～2020年

世界No.1製品の開発と グローバル化への対応

主力のEFI製品は、高効率化・小型軽量化を追求した世界No.1製品の開発を推進。加えて、燃費性能に貢献する製品やLPG・水素などのクリーンなエネルギーに対応した製品も開発し、環境にやさしいクルマづくりに貢献。また、自動車メーカーの海外進出に合わせ、米州、中国、韓国、ASEAN、インド、欧州に拠点を設立し、グローバルでの生産・供給体制を構築。当社の製品および自動車を通して、各国各地域の社会や環境に貢献。



- 2001年 東証・名証第1部に指定替え
- 2002年 小型二輪車用燃料噴射システムを開発
インドに生産子会社を設立
- 2013年 メキシコに生産子会社を設立
- 2017年 広瀬テクニカルセンター稼働
トヨタ向けLPG-HVシステムを開発・生産

2021年～現在

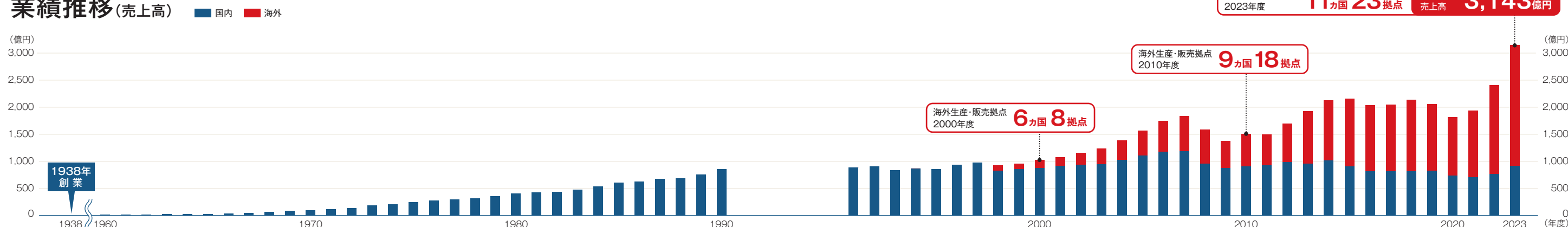
大変革期を乗り越え、 未来のモビリティと社会に貢献

100年に一度の大変革期を迎えた自動車業界において、技術とものづくりで社会に貢献し、社会に役立つ価値を提供していくことを目指し、中長期方針・VISION2030と中期経営計画を策定。得意分野である環境技術を活かし、自動車のパワートレイン製品を今後も支え続け、社会に貢献。電動化やクリーンエネルギーなどモビリティのさらなる進化にも貢献。モビリティの枠を超えて、水素やアンモニア技術やものづくり力で、暮らしやすい豊かな社会づくりにも挑戦。

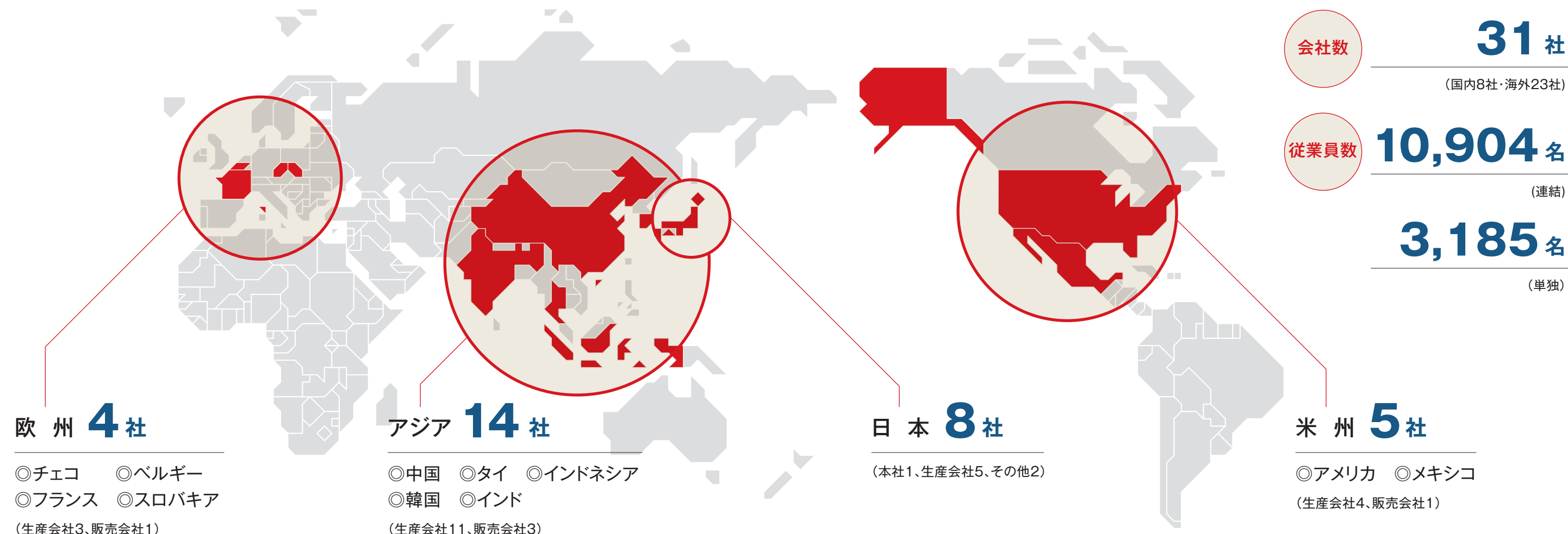


- 2020年 トヨタFCV向け水素FIシステムを開発
- 2021年 VISION2030を策定
- 2022年 東証の市場再編に伴いプライム市場を選択
(株)デンソーより燃料ポンプモジュール事業譲受
2025年 中期経営計画を策定

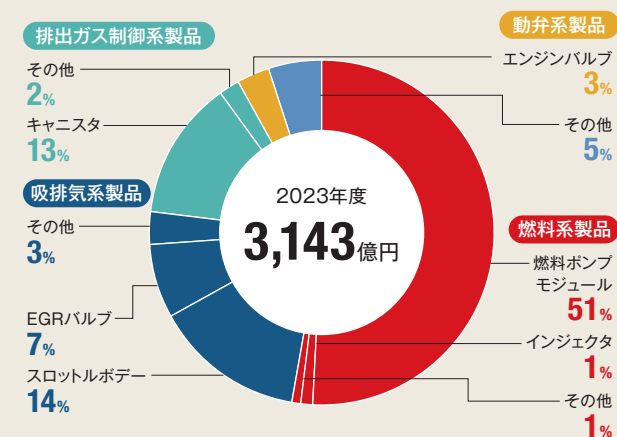
業績推移(売上高)



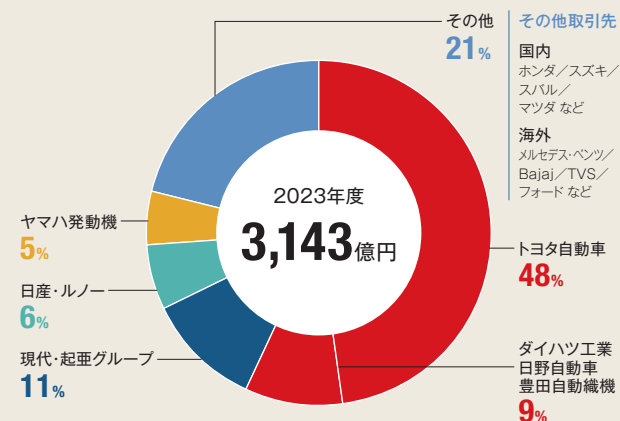
世界中を走るクルマの約3台に1台は、私たち愛三グループの製品が搭載されています。動力源の多様化が加速する中で、社会の変化を先取りして技術を進化させ、次世代モビリティへの対応を着実に進めることが私たちの果たすべき役割です。私たちはさらなる成長に向け挑戦を続けます。



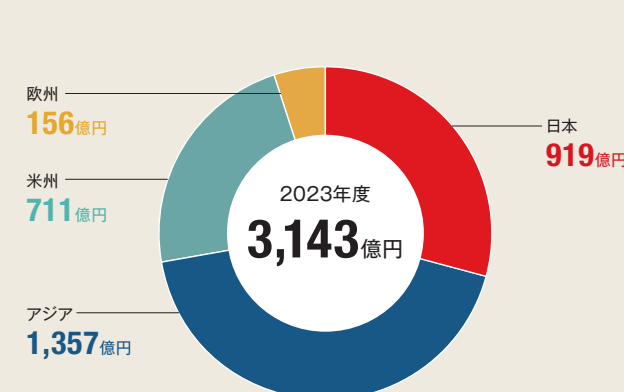
製品別売上高比率（連結）



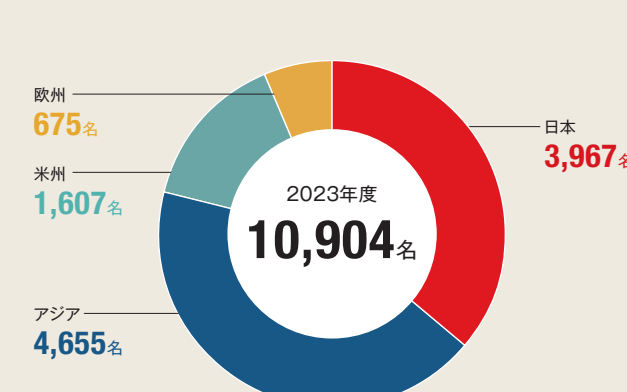
得意先別売上高比率（連結）



地域別売上高構成（連結）



地域別従業員数（連結）



(2024年3月31日現在)

パワートレイン製品

安全で快適なクルマへ

燃料系製品

タンク内の燃料をエンジンに送り込みます。燃料の圧力を保つ周辺部品も一体化し、ポンプ流量の制御でさらなる燃費向上に貢献しています。



吸排気系製品

エンジンへの吸気量を制御して快適な運転性能を実現するほか、排気ガスを再循環させ、燃費向上とNOx（窒素酸化物）低減などに貢献します。



動弁系製品

エンジン燃焼室の吸気口・排気口を開閉します。高温環境でエンジンの高速回転に追従するため、耐熱性・耐摩耗性が要求される製品です。



排出ガス制御系製品

燃料タンクや配管などで発生する、大気汚染の原因となる燃料蒸発ガスを吸着させ、排出経路を適切に塞ぎ、大気への放出を防止しています。

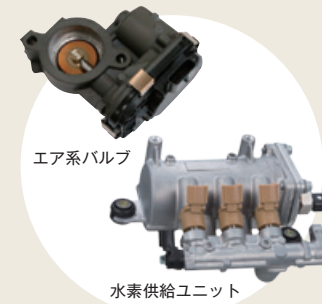


クリーンエネルギー向け製品

次世代モビリティ社会の実現へ

燃料電池製品

ガス燃料システムで蓄積したノウハウを活かし、燃料電池に供給される水素・酸素を制御し、高効率発電に貢献します。



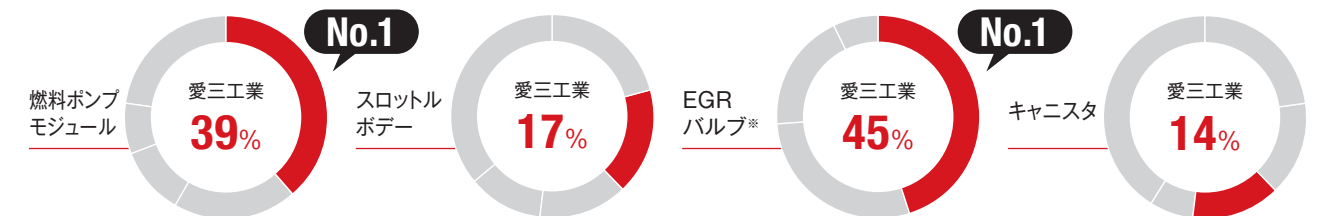
LPG・CNG製品

日本のタクシーに広く採用されているLPGや資源国を中心に需要が見込まれるCNGなど動力源の多様化に対応しています。



主力製品の世界市場シェア

（2023年度・自社調べ）



※EGR搭載率の高い日系OEMにおけるシェア

四輪車用主要製品

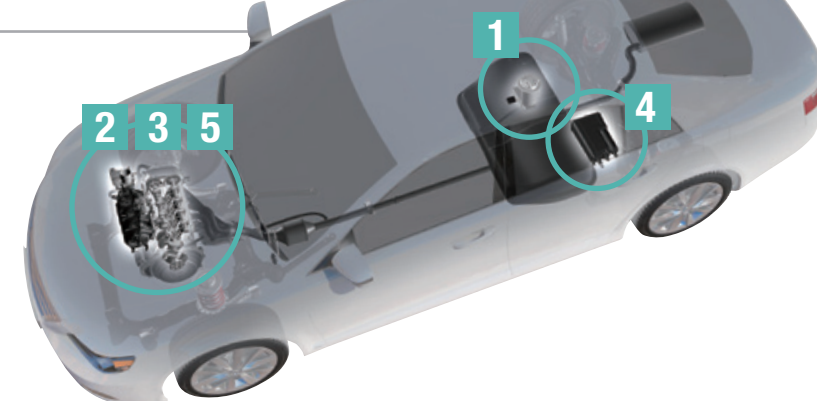
1 燃料系製品



3 動弁系製品



2 吸排気系製品



4 排出ガス制御系製品



5 LPG・CNG製品



二輪車用主要製品

